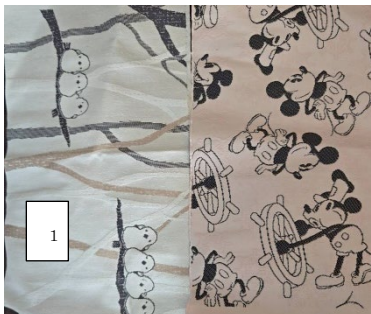
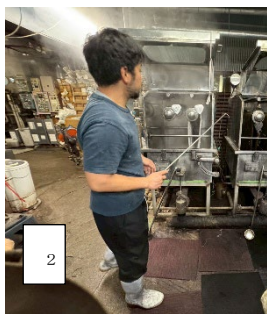


報告月	2月
グループ名	染織ころも

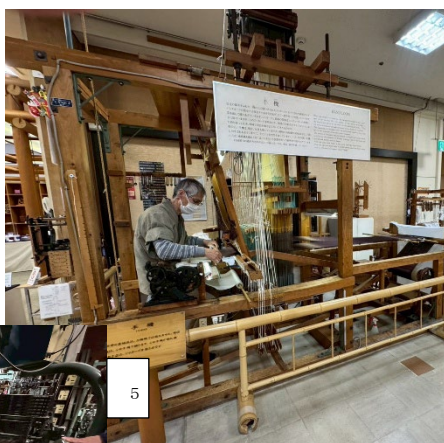
2月25日(水)あすて外研修
 「京都西陣織の職人たちと出会う旅」デザイン・染め・織り



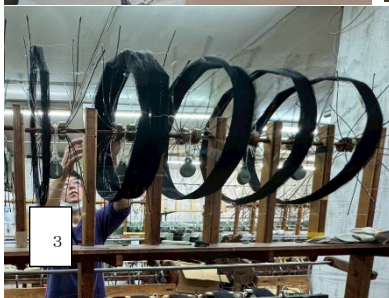
1



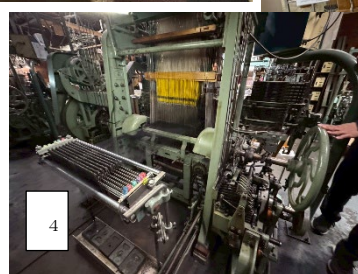
2



5



3

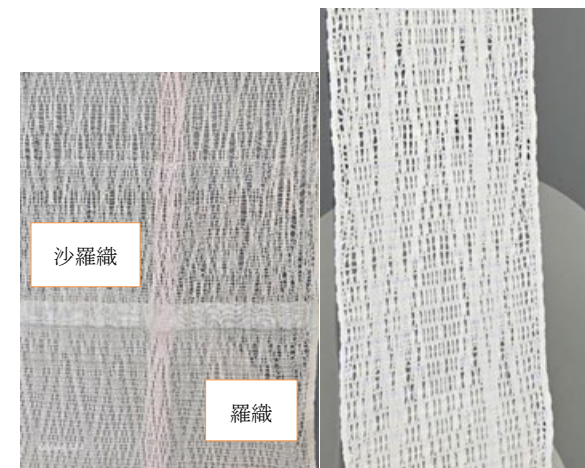


4

報 告
内 容

※写真があれば添付

- 1 今風のデザインを考え織る（使ってもらえてなんぼ）
 - 2 一度にしっかり染めるのではなく、少しずつ色を足して注文の色に仕上げる
白熱灯、LED などによって色目が違って見えるのでそれも加味
 - 3 染めあがった糸をかせにする（巻きはじめと巻き終わりでは一周の長さが違ってくる。（中と外の見分け方を教えていただいた）
 - 4 100年近く前の機会を手を加えながら使っている。今ではコンピュータも使う
 - 5 昔ながらの手織りの西陣織（織りの仕組みを教わった）
- いろいろな工夫の上に織りがある



沙羅織

羅織

深津先生が織りかけていたものを織りあげた H さん

今まで1枚織るのに何か月もかかっていたが東京手織り機で織ったところとても織りやすく2か月ほどできれいに折れた h さん

ものづくりオリンピックに向けて
 50センチほどの毛糸7本で段ボールディスクを使って編んでみる。手順は簡単なので一度覚えてしまえばすぐ編める。
 大人で1本編むのに30分ほどかかった。ディスクは持ち帰り。毛糸は切って用意しておく予定

報告月	1月
グループ名	染織ころも

報告
内容

※写真があれば添付

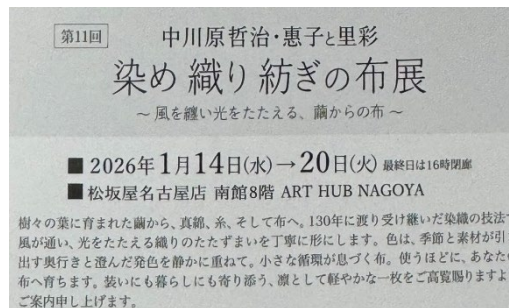
1月17日(土)あすて外研修

「中川原哲治・恵子と里彩

染め織り紡ぎの布展」

からみ織り(紗)を基本に織られている作品でしたので、羅織り、紗羅織をしている私には大変勉強、刺激に。細い糸の中に真綿で太く撚った緯糸にしたり、織り終わった後で絞りをいれたり、とても興味深かった。

中川原さんは過去に羅織りもされた事があると言われたが、柔らかさが思うように出なくて、やらなくなったらしい。(気さくにいろいろ話をしていただいた)今回の作品のように、使ってもらえる物を羅織り、紗羅織で作るにはどのように進めていけばいいか考えたいと思った。



1月24日 ヒアリング2時より

グループ活動目標

多くの方に織りを知っていただく

・織りについての知識を深め、多くの方に作品を見ていただき、知っていただく

あすてで活動する魅力

・自主的に活動できる

・人とのつながりがある

・施設が更新され使いやすく活動しやすい 機材も置かせていただける

・あすてという知名度

社会貢献

手で作る(織り・染め)

羅織を通じて人とつながり社会とつながる

SDGs(染織ころもとして)

L2 地域に愛着と誇りを

地域に発信するだけでなく、自分たちからアクションをかけ地域からも吸収できることを積極的に行っていく

今年度は石川家住宅・猿投大交流館・知立市美展・豊田市美展で見ただけ機会を作ることができた。来年度も知ってもらえる機会が作れるよう頑張っていく

作品の質を高めるために織るばかりでなく、外からの情報も積極的に取り入れられるような活動をする

なぜなぜで活動していた子が織り物を大学で学び、卒業後は愛知で学びたいと考えている。これまでのあすての活動が実を結んでいることは素敵なことだと思う。

報告月	12月
グループ名	染織ころも

<p>報告内容</p> <p>※写真があれば添付</p>	<p>活動回数 3回</p> <p>Kは相変わらず下のそうこうがうまくかけられず、結局3回ほど切ったり掛け直したりを繰り返し、やっと織れるかもという状態までこぎつけた。1回の掛け直しに半日以上かかってしまった時もある。</p> <p>Nは最後の追い込みで、あと少しで完成。毎回幅の狭いものを織っているので次は幅広の大作に挑戦したいと思う。</p> <p>Hは先生の機の羅のそうこうをかけ直し、あと30センチほどで織りあがる。紗のそうこうは使っていないので羅を織るのにとっても不便だったので切ってしまうことにした。少しやりやすくなった。羅と紗両方を使っておるのはやはり手間がかかる。</p> <p>①は大きな織機に変えて準備して織りだしたが、とても織りやすい。羅織用に改良された先生の機とは少し違うが、やはりやりやすいように改良はされていて、スムーズに織ることができ作業がはかどり気分も上がる。</p> <p>あすてミーティングの日をみんなで話し合う。やはり土曜の11時くらいがよいということに。Hさんがお休みだったのでHさんに予定を聞いてからと考えていてすっかり忘れ、年末に。あすてもお休みに入ってしまったて入力までに至らず。</p> <p>新年になったら行きます。</p>
------------------------------	---

報告月	11.月
グループ名	染織ころも

報 告
内 容

※写真があれば添付

ものづくりインピックの話
昨年は段ボール織を行ったが反省点として、
・大人の方が手を加えてしまったものを審査対象にすることはできないということで苦労したこと。
・参加対象者を小学生に絞ったらどうかということ
・段ボール織ではなく、他の作品作りで何か子供たちが興味を持ちそうなものはないか（腰機織でコースター織体験…腰機を固定するところが限られ大人数でできない腰機を織る箧もたくさんない×）（ミサンガ…やり方次第ではできるかもしれない 簡単なプレートを作ってやってみるのはどうか 早速家に帰りプレートを作りやってみた 綺麗ながらになるにはコツが要りそう。もう少し工夫がいるよう

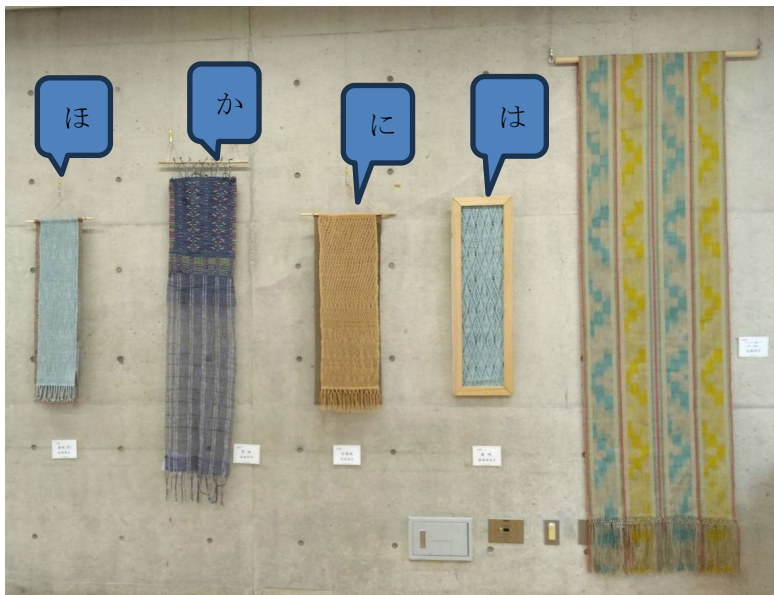
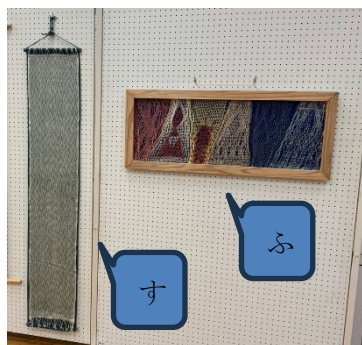
下掛けをかけるのに四苦八苦は さんは下掛け完了。織り始める
kは下掛けができたと思い、ひごに太い棒をつけるところでひごから糸が抜けてしまい、どうにか途中から下掛けがやり直せないかと直そうとしたが、うまくいかず節句やった下掛けの糸を切ってやり直しを始めた。



今年は市美展に出す作品が出来上がらず 1点のみの出品となった。市美展に織の出品は1点のみだった。織で出品する人が少ない。織を知っていただくためにも羅織りに限らなくても良いかも
また、出品するための作品を一人2点織るのはなかなか難しいと感じた。

報告月	10月
グループ名	染織ころも

知立市の市美展に応募



今年初めて知立の市美展に応募した。知立の市美展は市内在住在勤といった縛りが無い為、染織ころもメンバー全員が出品することができた。また、出品したものは入選する、しないに関わらず展示していただけるため、6点の作品を見ていただくことができた。

出品後①さんのところに②さんの作品の右の作品を出した方から連絡があり

- 織物は枠にいれないほうがいい
- もっと大きな作品にしないと見栄えがしないというアドバイスをいただいたそう。

また、羅織りに興味を持った方がいて教えてもらうことができないかと打診があったそう。我々にはまだ教えるだけの腕も自信もないのでお断りしたが、興味を持っていただくことができたということは出品の成果かと思う。(10月1日から5日まで展示。)

10月は新作に向けた活動を二人が開始
 図案を考えたり図案に合わせた糸の本数を決めたりして整経。箴通し、はたあげまで約1か月で行うことができた。(早くなった方です)
 (地糸ともじり糸を反対に入れた場所があって直すのに苦労した時もあるが自分で考えて直せるようになってきた)
 他二人は、今までの続きを織った

報告内容

※写真があれば添付

報告月	9月
グループ名	染織ころも

報 告
内 容

※写真があれば添付

昨年購入した糸を使おうと袋を開けたところ虫発生
急いで虫胎児をし陰干し、袋を入れ替える。
防虫剤を早急に購入し入れなければ
虫食いで糸が切れる事態になっていないとよいのだけれど

N

新作を作るための活動開始
家にあった紬糸を利用。何年眠っていたかなあ？
幅広にするのはまだ抵抗があるので今回も狭めの作品に
経糸 2mの 160本

1日で整経綜統通しリジットにセットまでできた。これから
また、地道に織っていく

いつも先生に「新美さんだね」と言われていた（数え間違え
をしたり糸をとばしたりしてなかなか考えていた柄にならな
かった）ので今回は綺麗な柄になるよう丁寧に仕上げたい。

K

9段でできる柄、1段ずつ糸を拾いながらやるので一柄織る
のに2時間強かかる。Hさんに聞いたところ約1m位を8時間
くらいで折れてしまったそう。庇護を入れて上下対称の柄にす
るとやはり糸を1本ずつ拾わなくていい分速いのだと確信

は

機を家に持って帰ったとき経糸を3本も切ってしまった。3本も
きちっとつなげたと思ったのだが、1本もじりが抜けてしまったこ
とに気づかず柄ができなくなってしまった。一度もじりが取れてし
まったものをどのようにつなげ直したらよいかわからずそのまま進
めたら振れてないところだけ穴があいたような柄になってしまっ
てがっかり。織りかけの機を持って来るのはまた糸を切るといけ
ないので家で織ることにした。

あすてでは、次の機用に糸の整経を始めた。前回と同じものを完
成させたいので同じ本数同じ長さで行う。

今度こそ納得のいく作品を仕上げたい。

H

糸の開きを見るための鏡 落として割れてしまった。鏡なしでや
れるかとも思ったがやはり、鏡がないと横から自分で覗いて糸の取
り忘れがないか見ないといけないので無理だと分かった。

いつもながら先生はこんな細い糸でよく織っていたなあと関心。

知立の市美展に出す作品を持ち寄る。

9月30日（火）搬入

10月1日から5日まで展示。知立の方たちに見ていただけるかな

報告月	8月
グループ名	染織ころも

報 告
内 容

※写真があれば添付

は

休み中に織るつもりで機を持ち帰ったが、糸に無理な力をかけてしまったようで経糸が3本も切れてしまった。糸を継ぐしかないが自分だけでやるには不安がある。休み明け再びあすてに持ち帰り、皆さんにアドバイスを受けながらやる。

経糸を継ぐことはできたが、うまい具合に柄が織れない。もじりがとけてしまったのかよくわからない。もう一度、綜紵を取ってもじり直すべきか。綜紵を作って庇護を入れるまでの時間を考えると決断できない。

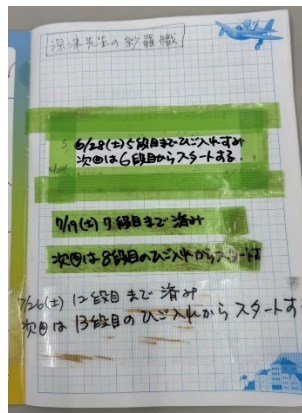
後半再び2週間あくので家に持ち帰る。今回は手伝ってもらい細心の注意をしたい

N

織りあがったので次の図案を考え始めた。次もリジットで織る予定

K

大きな蝶が織れたので一回り小さい蝶の図案を考え織ってみた。図が小さすぎるのか柄がよくわからず残念



H

羅のひごが入れ終わり一柄やっと織れた。ここまでの道のりが長かった次は紗のひごも使い沙羅織りできるか

今年は知立の市美展にもしゅっぴんすることに。
応募用紙をみんなで書いて提出
F先生やSさんも応募する

8月9日

交流館一部作品入れ替え
職員の方から見てくださった方の感想をいただいた。多少なりと展示を下弔した手ごたえを感じた



報告月	7月
グループ名	染織ころも

報告
内容

※写真があれば添付

は

竹ひごと竹ひごと横糸をいれ始めた
やっと織り初めることごできうれしいけど 今度のシルク
糸は毛羽がたつので手こずりそう

四段目まで竹ひごと横糸をいれながら進めたけど 出来
上がった柄がおかしいのでやり直すことにした
来週からは皆さんに聞きながら進めていき 失敗の原因を
見つけていきたい



組織図と合わせながら糸を拾う
糸を拾う針に長い糸をつけておく
べきことをすっかり忘れていた

N

やっと織りあがった。房の始末もして完成

K

下の糸綜統がうまくいかず中止
考えているデザインは対象柄ではないので、ひごを入れな
いでやることに。組織図の計算間違いがわかり緯糸を入れ
直し。一柄織れたがりボンに見えるかな。ちょっと大きい



H

半日で6・7段目の庇護入れしかできず先が長い
深津先生がコンパクトな糸車が欲しいというので調べてみる
と「チャルカ」というものを見つけた。色々調べてみると産技
でもかつてペットボトルを使ったチャルカらしきもののワーク
ショップをやったことが分かった。新しい発見
購入は断念し管巻きを改良して糸車を作ってみた。使えそう



今年2回目の展示会「猿投台交流館」7月30日～8月22日

報告月	6月
グループ名	染織ころも

報 告
内 容

※写真があれば添付

羅織り (N)

7日 10cmほど織りあがった。少しずつ同じ時間をかけてもたくさんおれるようになったと思う。

14日 久々にガーターを使ってよりこ（糸を紡ぐための綿）づくり。ガーター処理をした。後、升を裏返した上で竹箸に巻きつける。久しぶりにやったらこの工程を忘れていた。

21日 羅織りの続き

同じことの繰り返しなのに気を抜くと一つとんでいたりひろってなかったり。それもだいぶ前だったりすると戻るかチャームポイントにしまうか悩む。手造りだからこそ機械のように同じものはできない。ゆっくり間違えないように、個性と言われないように精進したい。

28日 羅織りの続き

今回も同じ作業

(k) 21日 下の綜続づくり

28日 下の綜続づくりやり直しをしたが、やはりうまくいかず。結局下の糸綜続がすべて切ってしまった。

羅織りには、やはり滑りの良い糸のほうが向いていると実感。現在使っている糸はシルクではあるが、毛糸のような風合いがあり、糸綜続の滑りがよくない。

綜続づくり (は)

7日 下糸綜続づくり完成

バランスよく仕上げるのにかなり時間を費やした

来週はやっと竹ひご入れ。織りはじめまであと少し。

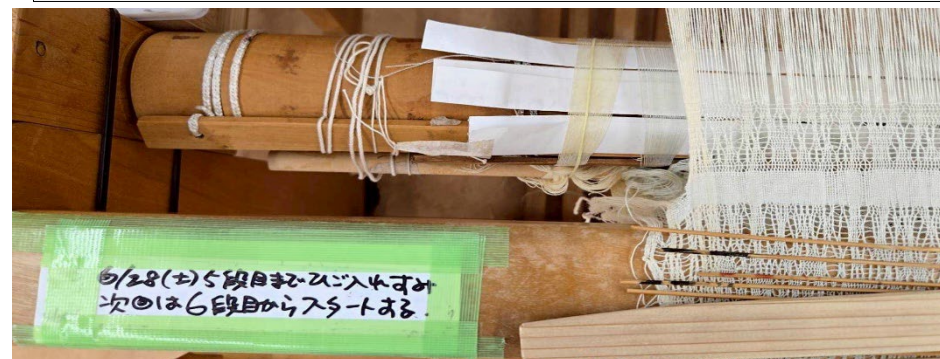
14日 ひごを入れるため図案を数値化した。いよいよひご入れ。織り始められるまであと少し。

28日 (ほ)

久々に細い糸を触った。やはり目が寄ってきて疲れる。

やっと数本ひごを入れながら織り進める子pとができた。少し柄ができてきたのもう少し織り進んで羅ドンながらになってくるか、先生と同じような柄になるか楽しみ。

次回はなにの作業からかメモを残すことにしている。すぐ作業に入れるように



報告月	5月
グループ名	染織ころも

<p>報 告 内 容</p> <p>※写真があれば添付</p>	<p>振り糸の上糸の糸綜続づくり (は)</p> <p>何とか一人でやれたと思っていた矢先、間違い発見。間違えたところだけチームの人に直してもらいました。すべて初めからやり直すことしか思いつかなかった私に知恵を分けてもらい、また一つ勉強に。</p> <p>試し織りをしてから下糸綜続づくり。毎回やり方を教えてもらい部分的に少しずつ思い出しては手が動いていく嬉しさを感じながら取り組めた。</p>	<p>綜続づくり (K)</p> <p>地糸ともじり糸が最後 10 本ぐらい逆になってしまっていることに気づき（上手に織れずなぜか悩んでいて違いに気づくのに時間がかかった）</p> <p>10 本すべてが逆ではなく 2 本だけ逆だけだったので余計に気づくのが遅れてと思う。しかし、2 本でも逆になってしまうときちゃんと織れないのは毎回思い知らされること</p> <p>伸子（布の幅を均等にするための道具）づくり 伸子は織る布の幅によって毎回作り直さないといけないので大変。伸子の端に針を 2.3 本ずつ使うのだが適当な縫い針が見つからなかったため、待ち針の頭を切って使用（ないものは工夫して作るがモットー） ひが短いものしかなく布の端までいかないため細い棒で押し込むことに成功。</p> <p>下の綜続づくりがやっと始められる。</p>
	<p>羅織り (N)</p> <p>なかなか均等ながらにならなかったが、もじり糸の取り方を間違えないようにするとか打ち込みを均等な力具合にするとかいろいろ工夫することで、少しずつ柄がそろうようになってきた。</p>	
	<p>紗羅織り (H)</p> <p>羅織り庇護入れ 2 本目まで入れ織った。 細い糸は目が疲れる。 先生はよくやっておられたとあらためて関心最後まで織れるか？諦めが肝心か？</p>	

報告月	4月
グループ名	染織ころも

4月5日 あすて始まりの会 会のお話をお聞きし、心新たに (あすての新年度のあいさつの後に、染織ころもの作品展の案内が写真と一緒に掲載され感謝)

あすての新年度が始まりました。

そんな桜満開の時期に、みよし市の指定文化財・石川家住宅にて、染織ころもの羅織作品展が開催されています。今月13日まで(水・木・土・日のみ)。ぜひお出かけください。



12日 経糸をかけ終わり平織りも数段済んだので振り糸をとった。もじり糸になる糸を下になるようにセットして地糸の下をくぐらせた。繰り返して、聞きながら完成。忘れないよう家でも復習 (H)

新しく織り始めるため2m250本の整経。太目で少しごわごわした糸なのでどのようにできるかな (K)

報告内容

※写真があれば添付

あすて

中日新聞

矢作新報

13日 石川家片づけ

中日新聞・矢作新報に取りあげていただいたこと、桜などのきれいな季節であったことなどで多くの来館者があり作品を見ていただく良い機会になりました。多くの方に知っていただくにはやはり、外への発信が大切だと実感。ただ、見学された方の中に、羅織りの部分を「ここは織っているのではないですよ」と何度も施設の方に聞かれていたそう。レースのような織がまだまだ理解できない方がいるのだと思う。

19日 箆通し 今までは引っ張って箆に通していたが押し込むほうがやりやすいと感じた。箆通しがすみ機あげ。糸がたるまないよう手伝ってもらった (K) 庇護を使っていたが対象の様様ではないので一段ずつ糸を拾うことに。手間がかかる (N)